

食と観光で25万人可能

あすなろ例会 50年後の釧路考える

中小企業経営者らの異業種交流を目的とした経済研

修団体の釧路あすなろクラ

ブ（齊藤政行会長）は13日、

釧路キャッスルホテルで6



50年後の釧路について考える
釧路あすなろクラブ

月例会を開き、50年後の釧路について考えた。

同クラブは「郷土を愛し

仕事に徹し 人と和す」

を信条に毎年、年間テーマ

を定め、それに沿った例会

活動を展開している。今年

はクラブ創設50周年の節目

で、「半世紀、新たな飛

躍」をテーマに研修を重ね

ており、6月例会では50年

後のまちづくりの方向性に

ついて会員同士が意見を交

わした。

この日は、同クラブ第4

部会（久保隆雄部会長）が

「50年後を大胆予想」と題

し、釧路を日本一住みやす

い街にするための構想を発

表した。同部会は1次産業

を軸に釧路管内市町村が一

体となり、「くしろブランド」

づくりに注力すること

で産業の育成を図り、国内有数の自然と冷涼な気候を生かした観光と組み合わせることで、50年後に人口25万人を実現できるとした。

また、少子高齢化社会に対応するため、千葉県のニュータウンを例に新たな都市計画も提案。旧浜釧路駅付近に公共交通の要所を全て集めるほか、郊外に一戸建てを持つ高齢者は中心部に住んでもらい、空いた郊外の住宅に次の世代を住まわせるという循環を図ることで、少子高齢化に歯止めを掛けられるとした。

（道永竜命）